

◎市長（角光雄君） ただいまの小川議員の御質問にお答えをいたしたいと思います。

最初、激励も賜りました。私も、そうした皆さんの期待どおりに一生懸命に努力する以外にないな、こんなふうに思っております。

最初に、白山市総合計画の策定における基本理念と策定日程についての御質問がございました。

まず、基本理念につきましては、合併協議の中で策定されております新市建設計画、いわゆる白山市まちづくり計画を踏まえながら、白山市がいかにして都市間競争に勝ち残るか。市民の皆さんが住んでよかった、住み続けたいと思えるような町づくりを行うために、より戦略的な計画としたいと考えているところであります。この策定に当たっては、白山市まちづくり計画の中にありますように、自然との共生、市民との協働、さらには都市部と田園部、山ろく部との共生というものが白山市をより発展させるものと考えているところであります。また、長い歴史に培われてきた旧市町村の文化を初めとする白山市の資源をいかにして活用していくか、知恵を絞る必要があると考えております。

策定スケジュールにつきましては、平成17年度は市民の方との対話集会、いわゆるタウンミーティングや市民フォーラムなどを通じ、より多くの市民の方の意見を聞き、先進事例を学びながら知恵を出し合って素案を策定し、平成18年度中には白山市の基本構想、基本計画から成る総合計画の議案を市議会にお諮りいたしたいと考えているところでございます。

総合計画の策定手法、市民参加についての御質問がありますが、今ほど申し上げましたとおり、市民との協働ということが今後の行政運営のキーワードの一つであり、市民と行政が協力し町づくりを行うことはもちろんのこと、計画の策定段階から市民の参画を得ることが必要と考えております。総合計画の策定手法につきましては、市民意識調査を実施し、市民の方の白山市の満足度や要望をお聞きし、先進事例を学び、各層からの意見を聞く市民フォーラムの開催などを予定しております。また、白山市が合併後間もないということもありますので、旧市町村単位でタウンミーティングを精力的に開催し、市民の方と直接ひざを交えながら声を聞き、総合計画の策定に反映していきたいと思っております。

また、策定案の段階でパブリックコメントを実施するとともに、従来より旧市町村に総合開発審議会という諮問機関があったわけではありますが、白山市におきましても同様の趣旨の総合計画審議会を設け、新たに公募委員の参加も募り、計画案について大所高所から意見を述べていただき、バランスのとれた計画をいたしたいと考えておるところでございます。

市役所から松任駅周辺の町づくりについてであります。

松任市都市計画マスタープランにおいては、中心市街地として位置づけられており、現在、松任駅南地区土地地区画整理事業や松任駅北相木地区土地地区画整理事業、千代尼通り商

店街における電線類の地中化事業などを進め、歴史、文化と活力を感じる駅南地区、緑豊かで潤いのある住宅地、魅力ある商店街の整備に努めているところであります。今後の白山市におけるこの地域の町づくりにつきましては、これから策定いたします総合計画を踏まえ、都市計画マスタープランを策定する中で検討してまいりたいと考えております。

おっしゃるとおり、松任駅南地区の開発を進める中で、今は広小路通りまでを20メートル道路というふうに考えております。以後、やはりこの市役所が今度白山市の本庁舎ということになりましたから、こうしたこの間における今後の開発計画については、いわゆる白山市全体の都市計画マスタープラン策定の中で考えていきたいというふうに思っております。また、その際には、議会、学識経験者、市民の方々より御意見をいただく機会を設けたいというふうに考えておるところでございます。

JR松任駅南地区につきましては、事業区域7.5ヘクタールにおいて、「歴史・文化と活力を感じる庭園都市の顔づくり」をテーマに、白山市の新たな玄関口として土地区画整理事業による整備を進めておるわけでございます。従来、合併前は、旧の松任の顔ということで計画をいたしました。しかし、こうして新しい白山市の誕生を見たのでありますから、白山市民11万の市民が理解と協力いただけるような、そういう白山市の玄関口ということの開発を進めたい。

これにつきましては、きのうもシンポジウムがございました。私は、そのシンポジウム前の30分間、自分の思いを申し上げました。私は、やはりこれから、山ろくから平野、海岸までの大きな地域を抱える合併で誕生したわけでありまして、ですから、全体を庭園都市という考え方で、今現実にも山ろくにはすばらしい自然環境がございます。そういう自然環境を生かしながら、借景とした、将来においては観光の中核を担うような一民間の手によってできればいいと思うんですけども、美術館とか、あるいは白山信仰というものを中心とした博物館をつくるか、そうしたことによって、今白山市は、夏場は登山客が多いわけです。冬場はスキー場がございます。その中間におけるところのものはどうするか。年間を通じていかに観光客を呼び、しかも白山市として世界にアピールできる、そういうような観光地をどうして生んでいくか。こういうことを考えますと、やはり年間を通じてこの白山市へ来ていただけるようなそういう施設、拠点を設けることも将来にとっては大切なことだと私は思います。

そういう面で、全体を含めてマスタープランをし、そしてまたあわせて松任駅南地区の開発というものを考えていくことが、私は市民にとっても大きな夢を抱いていただけるものでなかろうかな、こんなふうに考えております。

これからも、駅前の開発等につきましてはわかりやすく、あるいは案内看板を要所に配置し、自由に散策できるような整備も行っていきたいというふうに思っております。

今後は、白山市の玄関口としてのJR松任駅南口にC. C. Z.、車遊館、それから鶴来地区の観光情報センターに続く情報発信センターを設置してはどうかとの御提案につきましては、観光情報の拠点として観光客の利便性が高いと考えられますが、今後これも関係

者と十分協議しながら前向きに検討してまいりたい、こんなふうにも思っておるところでございます。

このたび、石川県内で最も広い市域を持つ白山市が誕生したわけでありますから、市全体の融和を図りながら市民の一体感を醸成し、調和のある町づくりを進めることが極めて重要であると認識しております。初代市長としての重責をひしひしと感じつつ、市民の皆さんの負託にこたえるよう、全力で市政運営に当たる所存でございます。だれもが快適に暮らすことができ、白山市の将来に夢と希望を抱いていただけるような町づくりをするために、持てる力の限りを傾注していく覚悟であります。議員皆様の御理解と御協力、また御指導も賜りますようお願いを申し上げたいと思います。

松任駅への特急列車の本数増策につきましては、企画財政部長より答弁をさせます。